

出生時胸囲および胸囲/頭囲比と小中学生の肥満度と収縮期血圧との関連の検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菊池, 透, 武者, 育麻, 川名, 宏, 小川, 洋平 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004029

第 10 回日本 DOHaD 学会

<一般口演 5>

出生時胸囲および胸囲/頭囲比と小中学生の肥満度と収縮期血圧との関連の検討

1 埼玉医科大学小児科 2 新潟大学医歯学総合研究科新潟地域医療学講座

菊池 透 1

武者育麻 1、川名宏 1、小川洋平 2

【緒言】胎児期低栄養は、体重と同様に胸囲および胸囲/頭囲の成長を妨げる。特に胸囲/頭囲は、子宮内栄養状態が胎児にとって十分かどうかの目安になるかもしれない。リアルワールドで、この2つの指標が小児期の肥満や血圧と関連があるか、健常児対象の健診結果を用いて解析した。

【対象と方法】

2004 年~2018 年見附市小児生活習慣病健診を受診した小学校 4 年生男児 2107 名、女児 1969 名、中学校 1 年男子 1927 名、女子 1786 名のうち、問診票に出生時身体計測値の記載がある在胎 37~41 週の正期産児を対象にした。健診では、身長体重から肥満度を算出し、血圧はダイナマップ型自動血圧計で3回連続して測定し、3 回目の測定値を採用した。出生時胸囲および胸囲/頭囲比と健診時の肥満度と収縮期血圧との関連を検討した。統計解析は JMP13.2.1 を用いた。

【結果】解析対象者は小学校 4 年生男児 1407 名、女児 1287 名、中学校 1 年子 1139 名、女子 1047 名であった。出生体重は男子 $3163 \pm 395\text{g}$ 女子 $3069 \pm 385\text{g}$ であった。胸囲は男子 $32.4 \pm 1.6\text{cm}$ 、女子 $32.0 \pm 1.5\text{cm}$ 、胸囲/頭囲比は男子 0.97 ± 0.04 、女子 0.97 ± 0.04 であった。健診時の肥満度は男女とも胸囲と正の相関があった。胸囲/頭囲比は男子のみ正の相関があった。収縮期血圧は胸囲、胸囲/頭囲とも単回帰分析は関連がなかった。肥満度を交絡因子とした重回帰分析では、胸囲/頭囲が小 4 男子のみで負の関連があった。その他はいずれも関連はなかった。

【結論】胸囲および胸囲/頭囲は、小児期以降の肥満の予測因子になりそうであり、DOHaD 学説での出生体重と同様の意義が推測された。